

第 3575 図

ゆきのした科



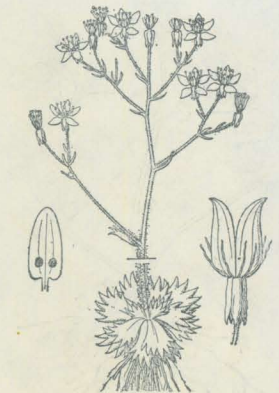
第 3576 図

ゆきのした科



第 3577 図

ゆきのした科



いわやつて

一名たんちょうそう

*Aceriphyllum Rossii Engler*

(=*Mukdenia Rossii Koidzumi*)

朝鮮・満洲に自生する多年生草本で、時に観賞用として栽植されている。太い横臥した根茎があり、春新葉と共に花茎を出す。葉は長い柄があり、心円形で掌状に5-11裂し、裂片は卵状披針形で鋸歯があり、質はやや厚く平滑で下面は暗紫をおびる。花茎は高さ10-30cm、ごく細かい腺毛を密生し、先は分岐して聚繖状に多くの白花を密につけ、花枝の先は初め外側へ巻いている。萼は5-6深裂し、裂片は狭披針形で長さ約5mm、白色花弁状時に淡紅をおびる。花弁は5-6枚、白色で萼より短く長さ約3.5mm。雄蕊も5-6本、花弁より短く、葯は初め暗紅色、花柱は2本。和名岩八手は岩地に生じ葉型がヤツデに似ている意味である。

もみじばせんたいそう

*Saxifraga sendaica Maxim.*

var. *laciniata Nakai*

四国、九州の深山岩上に稀に生ずる多年生草本である。茎は直立し太く高さ5-10cm、膜質鞘状の葉に包まれている。茎の先には長い柄のある尋常葉を出し、卵円形で基はやや心臓形をなし、掌状に7-9中裂し、裂片は卵状披針形で先は鋭く尖り、縁にあらゐり鋸歯があり、質は厚く上面は初め少し毛があるが後殆ど無毛となる。秋、茎の先から花茎を出し、平たい繖房花序に白花をつける。花梗は細そく長さ2-10mm、萼片は5個、長卵形で長さ約4mmある。花弁は5枚、白色披針形で下側の1-2片は他のものより著しく長大になり長さ2cmに及ぶ。雄蕊は10本、雌蕊は2心皮からなる。基本種センダイソウは紀伊半島、四国、九州に稀に見られ、葉の裂け方が浅い。

くもまゆきのした

一名ひめやまはなそう

*Saxifraga laciniata Nakai et Takeda*

北海道、樺太、朝鮮の高山に稀に見る多年生の小草本である。葉は地表に横に開いてロゼットをつくり、長倒卵形で下半部は長く楔状に細まり、上部には5-11個の深い鋭い鋸歯があり、長さ1-3cm、巾5-10mm、肉質で縁に長い腺毛がある。時に地中に糸状の匍枝を出す。夏、高さ4-10cmの花茎を出し、やや疎な繖房花序をなし白花をつける。花茎や花梗には腺毛が多く、萼は5裂し、裂片は長楕円形で長さ2-3mm、花が開くと下へ反りかえる。花弁は5枚、長楕円形で長さ5-6mm、白色で下部に2個の黄色の斑点があり、基は心形急に細まって短い柄がある。雄蕊は10本。蒴果は長さ5-7mm、2心皮は下半癒合する。

いわゆきのした

*Tanakaea radicans Franch. et Sav.*

東海地方や四国の深山岩上に稀に産する常緑多年生の小草本である。根茎は横にはい、長い糸状の蔓をだし小形の葉を互生し、先は地について新苗をつくる。葉はあらゐり毛の生えた長い柄があり、長卵形で基はやや心形、縁に鋸歯があり、長さ2-8cm巾1-5cm、質は厚く下面は紅紫色をおびてあらゐり毛を散生する。5-6月、高さ12-20cmの花茎を出し、円錐花序をなし多くの小さい白花をつける。萼片は普通5個、長卵形でやや尖り、長さ1-1.5mmあり、花弁は無い。雌雄株を異にし、雄花は長い10本の雄蕊を有し、雌花には雄蕊無く、半ば以上癒合した、2心皮からなる雌蕊がある。

ひとつばしょうま

*Astilbe simplicifolia Makino*

富士周辺山地の岩上に産する多年生の小草本である。根葉は細長い柄があり、卵形で先は鋭く尖り基は心臓形、時々浅く3-5裂し、縁に不揃いの鋸歯があり、長さ2.5-8cm、毛が散生し、上面少し光沢がある。花茎は高さ10-30cm、茎葉は1個か又は全くない。花序はまばらに枝を分ち、長さ5-20cm、6-7月に白花を開く。花軸や花梗には腺毛があり、萼は長さ1.5mmで5深裂する。花弁は線形で鈍頭、基は長く細まり、長さ約2.5mm。雄蕊は10本で花弁とほぼ同じ長さがあり、雌蕊は2個。蒴果は下へ向い長さ3-4mm。この属は複葉をもつ種類が多いが、本種は単葉である点が著しく、和名も一葉升麻の意味である。

あかしょうま

*Astilbe Thunbergii Miquel*

山地に普通に見られる多年生草本で、太く短い根茎がある。葉は長い柄があり、3回3出複葉で、柄の基や分れ目に褐色の長い鱗片状の毛がある。小葉は長卵形で先は長く尖り、縁には重複した鋸歯があり、長さ4-10cm巾2-4cm。6-7月、花茎の先に長さ10-25cmの複繖状花序をなし、花軸には短い腺毛が密生し、小白花を密につける。花は短い柄があり、萼片は5個、卵形で長さ1mm許、花弁はへら状線形で先は鈍頭、基は長く細まり、長さ3-4mm。雄蕊は10本、雌蕊は2個。蒴果は下へ向く。北海道や北陸地方に多いトリアンソウマ(第1486図)より普通小葉が巾狭く基は細まり鋸歯はやや浅く、花序の横枝は再び分枝することが少く、花序がまばらに見える。

第 3578 図

ゆきのした科



第 3579 図

ゆきのした科



第 3580 図

ゆきのした科

